

事業名	少年事業 子どもの実験教室				
予算	歳入予算 (円)	歳入実績 (円)	歳出予算 (円)	歳出実績 (円)	
平成31年度			報償費72,000 委託料843,000 ※当該事業に関連する項目のみ	報償費60,000 委託料827,340	
令和2年度			報償費108,000 委託料1,017,000 ※当該事業に関連する項目のみ	報償費102,000 委託料912,112	
事業の位置付け	根拠法	社会教育法、狛江市立公民館条例、狛江市立公民館条例施行規則			
	市の基本計画	狛江市前期基本計画 まちの姿6「生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち」 施策6-①「地域における学びの充実」方向性2「生涯を通じた学びの実現」 第3期狛江市教育振興基本計画 基本方針(4)生涯を通じた学びの充実 ①学びの環境づくり「地域の身近な場所で学ぶことができる環境の充実を図ります。」			
事業目的	身近な題材をとりあげ、ものを作り、遊び、学びの中で喜び創造を高め、学校、年齢をこえた仲間づくり。	持続可能な開発目標 (SDGs)			
事業内容	開催頻度	年間18回 (小学1～2年生：9回+小学3年生以上：9回) 土日開催			
	新規・継続	継続	実施主体	市・委託事業者	
	実施対象	市内在住・在学の小・中学生	参加者数	延187人	
事業評価 ＜評価視点＞	評価項目	評価理由		評価	
	＜周知＞ 市民に周知されているか	広報こまえ・市教育委員会ホームページ・市内掲示板・市公式SNS (Twitter、Facebook) への掲載による周知を行った。申込み開始直後に満員となることが多く、18回すべての総合的な申込み率は99%であった。		公民館 A	公運審 A
				全体 A	
	＜環境＞ 事業の実施に伴い、人員、設備、衛生面等は適切であるか	委託事業者2～3名に加え、市民が2名協力者として参加者の監督・講師の指導補助を行った。新型コロナウイルス感染症対策のために定員を削減していることもあり、参加者の子ども2～3人に付き大人が1人付くことのできる体制で安全管理を行った。料理実習室では換気扇を稼働させ、換気も適切に行えた。		公民館 A	公運審 A
				全体 A	
	＜満足度＞ 参加者にとって満足のいく内容であったか 利用者のニーズを反映できているか	実験をするだけでなく、学んだことを記録してもらえようように、参加者には専用のノートを配布している。2回目以降の参加時には持参してもらっているが、持参者が多く、リピーターの多さや学習意欲を感じる。参加者・見学した保護者から次回以降の実施日を確認されることも多く、ニーズがあると評価できる。		公民館 B	公運審 A
全体 A					
＜達成度＞ 公民館が目的を達成できたか 市の課題解決に役立っているか	科学実験を通して、子どもたちに自然科学を楽しく学んでもらうことができた。また、学校や学年の違う児童とも実験を通じて交流することができる良い機会となった。子どもたちが公民館事業へ参加するきっかけにすることができたと考えられる。		公民館 A	公運審 A	
			全体 A		
＜発展性＞ 参加者の学びの意欲を促進できたか	参加した子どもたちは板書や自分の観察した実験の内容のイラストなどを専用のノートに丁寧に書き写している様子が見られた。また、実験の内容によっては作成した物を持ち帰ることができ、自宅などでも試してみたり、復習することができたようだ。		公民館 A	公運審 A	
			全体 A		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 電話、窓口のみの申請受付かつ先着順だったため、仕事や子育てにより、申込みできない市民が潜在的に多くいたと考えられる。インターネットを活用した電子申請を今後導入し、先着ではなく多数抽選の形式とすることで、参加者にとって時間の制限なく、気軽に参加申込みできる環境を整える。 新型コロナウイルス感染症対策のために定員を縮小していることもあり、対面での参加人数に限りがあることから、今後は動画配信などの手法により、より多くの方に学びの機会を提供できるようにする。 アンケートを導入し、参加者の満足度をより客観的に評価できるようにする。 				
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> 受付時にすぐに定員に達すること、継続した参加者が多くいることからニーズが高いことが伺える。 求めている方により多く参加していただける機会を創出することが必要である。 公民館において、理系分野の事業は少ないため、他事業でも展開できると良い。 学校とは違って、「テスト」のない公民館だからこそ、こういった教室は参加者の自発性をさらに促し、より深い理解・学習につなげることが出来る。今後も事業の発展・拡充に力を注いでいく必要がある。 				